



■Mid-college “Be Strong” Program

研修先:アメリカ ワシントンD.C.
研修期間:8月下旬
開 講:春学期 集中科目 4単位
グローバル・リベラルアーツ副専攻科目



体験談

(2024年度受講生 法学部 北川さん)

●受講のきっかけ

今まで自分が受験などで勉強してきた英語がどこまで現地で通用するのか試してみたいという気持ちと、大学生になったら海外研修に参加したいという漠然とした気持ちで資料を探していたら見つけたので応募しました。

●科目に期待していたこととそれがどう実現されたか

初めて行く異国の地で、問題が起きてもできるだけ自分の力で乗り切りたいと思っていました。実際、プログラムは組まれています、現地に行ったらあとは各自で行動したりできるのが良かったです。例えば博物館でわからないことがあったら現地のスタッフさんに自分で質問して案内してもらったりしましたが、日数を経るごとに現地の人とのコミュニケーションがスムーズにできていく感覚があって良かったです。

●受講前に抱いていた不安とそれをどう克服したか

今まで受験英語しかやってこなかったのが英語を話す機会がなく、現地でコミュニケーションを取ったりできるかなという不安はありましたが、案外読めるし話せます。3日くらいすれば英語圏の環境に慣れてくるので、一番の克服は慣れだと思います。他には治安面を気にしていました。確かに日本とはスケールの違う治安面での怖さは体験しましたが、治安面も1週間くらいで慣れてくると思います。海外でテンションが上がりますが、ハメを外しすぎずに行動することが大切です^^

●現地研修での活動内容

現地の博物館に行ったり、歴史的な建造物に訪問できたのが良かったと思います。さらに、プログラムとして組まれている訪問先は、普段のプライベートの海外旅行ではあまり行かないようなところ(裁判所やチャペルなど)が多いので、このような機会に足を運べたことは良かったと思っています。

●特に印象的だった訪問先

ジョージ・ワシントン大学です。その大学生と政治的なことや文化の違いについて会話をしました。アメリカ人は政治的なことでも自分の意見をまっすぐに臆することなく言っていたことが印象的でした。日本だと話し合いの場で前に発言した人と違う意見を言うのが難しい空気が流れることがあります、アメリカ人はまっすぐに意見を言うのに全く悪い雰囲気になりません。むしろ様々な意見で場がより盛り上がったのでそのような文化は日本にはないし、羨ましいなと思うと同時に見習いたいと思いました。また、様々なアイデンティティの人がいましたが、それに対する寛容さも見習いたいと思いました。

●自由時間の過ごし方

先輩と一緒に、組まれていたプログラムで訪問したけれどもう一度行きたいと思った博物館や観光スポットに行きました。みんなで野球観戦にも行きました。アメリカ本場の野球を楽しめたことは一生の思い出になりそうです。

週末2日のうち1日はニューヨークへ行きました。ワシントンとはまた違った雰囲気
の都市で印象に残っています。(体験談インタビュー 箱林さん)

●科目の受講を通して得た気づき

日本の治安の良さ、サービスの良さに改めて気づくことができました。また、ワシントンで出会った方は、皆様学生の頃に何かに打ち込んでそれがきっかけで道がひらけた方が多かったの、なんでもいので自分の興味のあることから極めてみようと思いました。

●受講後に新たに目標とされていること

TOEICのハイスコアを目指して対策をしています。

●プログラム参加を検討している学生さんへのメッセージ

海外に行ったことがない方はもちろん、あまり海外経験がない方は10日間もアメリカで過ごすことに不安を感じるかもしれません。確かに、行く前は不安と期待が混じったような気持ちになりますが、減多にできない経験をたくさんできるので迷っている暇があれば申し込んで行って見ると良いと思います!あとは、このプログラムで今の自分の英語力で何か大きく成長できるのだろうか、変化が訪れるのだろうかと思て申し込むのを躊躇うかもしれません。ですが、10日間も海外にいればトラブルも大変なこともたくさん起こるので、英語力やプログラム内容以外にも人間性や価値観の面で成長できることはたくさんありますし、その面においても私は成長できたと思っています。現地での活動も、自分の行動次第で濃くも薄くもなんともできます。なので、1番は自分で挑戦してみたい、頑張ってみたいという気持ちが大事だと思います。自分の興味を信じてぜひ参加してみてください^^

■Freshman “Go Global” Program -51

研修先:ベトナム ホーチミン
研修期間:2月下旬~3月上旬
開 講:秋学期 集中科目 2単位



体験談

(2023年度受講生 社会学部 齋藤さん)

●受講のきっかけ

きっかけは二つあります。一つは、大学生のうちに海外経験をしたかったからです。海外に行ったことがなかったため、大学の授業を利用することで、安心して行けるのではないかと考えました。もう一つは、ベトナムという国に興味を持ったからです。説明会に参加をして、日本やヨーロッパのような先進国では得られない学びがあるのではないかと感じました。(バイク中心生活、貧困・格差がある、平均年齢が低く若い人が多い、人口増加国である、など)

●科目に期待していたこととそれがどう実現されたか

新しい人と交流ができることを期待していました。全学部共通科目であるため、学科や学部の方友とは異なる人と出会えるのではないかと考えていました。実際、事前学習の時間からグループで話し合うため、受講メンバーと親しくなれます。また、現地ではベトナム人大学生とも交流するため、非常に多くの人との出会いがあり、刺激を受けることができたと思います。

●受講前に抱いていた不安とそれをどう克服したか

初めての海外であるため、持ち物に関して不安を感じていました。しかし、事前説明で保険会社の方や事務の方が必要なものはきちんと説明してくださるうえ、同行する先生もベトナム滞在に慣れている方なので、いろいろ聞くことができます。また、グループメンバーと事前に連絡先を交換していたので、準備している段階で迷ったことはメンバーに聞いて不安を解消していました。

●現地研修での活動内容

現地研修は、朝から夕方頃まで訪問先でのスケジュールが組まれています。訪問先までは送迎バスを使います。団体行動であるため、困ることはほぼありません。訪問先では、主に①見学②お話を聞く時間③質疑応答という感じです。現地研修で大切なのは、いかに主体性を持って訪問するかだと思います。

良くも悪くも、観光バスツアーのように連れて行ってもらえる環境であるため、訪問先で自分は何を学びたいのか、目的意識を持って主体的に動くことより良い時間になると思います。私自身、3日目以降から目的意識を大切にするようにしたところ、自分なりの学びを得ることができたので、満足度が上がりました。

●特に印象的だった訪問先

Mirai Humanという日本語学校です。ベトナム人の若い人が日本で働けるようになるために、日本語を教えている学校です。印象的だった理由は2つあります。1つは、Mirai Humanで学んでいる子たちとの交流です。授業では、一生懸命日本語を話しており、私たちに對しても日本語で質問を用意してくれていました。最後には日本の歌を歌ってくれて、本当に、とても感動しました。彼らは「憧れの日本」「日本に行ってみよう」という強い思いがあるようで、日本で育った自分を誇らしく思える体験でした。もう1つは、Mirai Humanで日本語を教える先生方のお話です。先生は皆日本人の方で、授業見学をした後にお話を伺ったのですが、どの方もバイタリティに溢れる素敵な方でした。50歳で転職した方や、コロナ禍でベトナムに行くことを決意された方など、各々が何らかの思いを持って働かれていることを知りました。人生のキャリアをどうするかという点でも、考えさせられる訪問先だったと感じています。

●自由時間の過ごし方

主にグループメンバーと過ごしていました。初日は、現地滞在をサポートしてくれる方がおすすめされたお店へ行っていました。しかし2、3日もすると土地勘がついてくるので、自分たちで行きたい場所をGoogleMapなどで調べて行っていました。ごはんを済ませた後に、カフェや市場、チョコレートのお店、ローカルスーパーなどにも行って、お土産もたくさん買いました。とは言っても、遊びすぎると次の日の研修にひびいてくるので、疲れない程度に楽しむといいかなと思います。

現地でサッカー観戦を楽しみました。

(体験談インタビュー 後藤さん)

●科目の受講を通して得た気づき

コミュニケーションで大切なのは「思い」だと感じました。言葉や文化の壁ではなく、いかに自分の思いを伝えようとするか、相手に思いやりを持てるか、些細なことがコミュニケーションを可能にするのだなと感じました。以前より、海外の方から声をかけられても、抵抗なく話せるようになったと感じています。

●プログラム参加を検討している学生さんへのメッセージ

お金がかかるし、旅行で行けばいいし、と思っている人もいるかもしれませんが、ただの旅行では得られない経験ができると思います。同志社の大学生だから行ける場所に行くことができます。日系企業や日本語学校、ベトナムの大学などに行ける機会など、そうそうありません。よく検討して自分なりの目的を持って参加してもらえればいいかなと思います。

■Freshman “Go Global” Program -52

研修先:ドイツ・フランス・ベルギー
研修期間:2月下旬~3月上旬
開 講:秋学期 集中科目 2単位



体験談

(2024年度受講生 文学部 古御門さん)

●受講のきっかけ

大学在学中にできるだけ多くの国を訪れたいという目標があり、このプログラムでは短期間で3つの国に訪れて様々な体験ができることに魅力を感じたため。

●科目に期待に期待していたこととそれがどう実現されたか

渡航前に抱いていたヨーロッパに対するイメージと実情がどのように違うのかを検証することが目的だったが、現地でのフィールドワーク等を通してそれらを明確にすることができた。

●受講前に抱いていた不安とそれをどう克服したか

ヨーロッパの治安に対する不安はあったが、現地では良い意味でそれらが現実であるということをも身を持って学ぶことができた。危険な目に遭うことはなかったため、スリ等の不安があれば万全の対策を講じておくとも未然に防ぐことができた。

●現地研修での活動内容

ダイキンchemical社では主に日本とドイツの職場環境の違いについてお話を伺った。現地で子育てをされている方からはドイツの教育現場の現状をお聞きすることができた。ケルン日本文化会館では国際交流基金がケルンで日本文化を広めるためにどのような活動を行っているのかを知ることができた。

●事前・事後授業と他の授業との両立について、工夫したこと

本プログラムにおける課題で他の授業に支障が出るようなことはなかった。能動的な姿勢で海外に対する興味を膨らませつつ、現地でどのようなことを知りたいのかというイメージを明確に持って事前授業に取り組んだ。現地で遂行したい目標を具体的にするようにした。(現地の学生さんと会話を楽しみたい、街並みを見てみたい、企業訪問では就活の参考になることを聞きたい等)

●特に印象的だった訪問先とその理由

ケルン文化会館が特に印象的であった。日本から遠く離れた地でも日本の文化が親しまれていることを知って大変うれしく思った。国際交流基金のような海外で自国の文化の発展に携わるような職業を知り、本年度から本格的に始まる就活の際に視野に入りたいと強く思った。

●自由時間の過ごし方

美術館を訪れたり旧市街地の散策に時間を充てた。きれいな街並みを見たり市民の方の暮らしぶりを観察することでもできた。各都市のスーパーマーケットに足を運んでみて生活インフラにおける日本との違いを感じることもできた。(ヨーロッパはパン食の文化であるためパンの種類が日本に比べて非常に多かった)比較的確このスーパーにもお寿司が売られていた点は興味深かった。

クラスメイトと現地のレストランに積極的に出かけ、郷土料理をはじめとした現地の料理を楽しみました。(体験談インタビュー 安田さん)

●科目の受講を通して得た気づき

現地に足を運び自分の目で見てみることの大切さを実感した。治安や国民性の実情を知ることができたことはもちろん、日本という国の良さを改めて確認することとなった。日本で暮らすうえで当たり前だと感じていることが一歩外の国に出てみるとそれらは全く当たり前ではなくなることを痛感した。さらに多くの国に足を運び異なる景色や文化に触れることが目標となった。

●受講後に新たに目標とされていること

受講前から考えていたことではありませんが、大学在学中に10か国は訪れたいという目標があるため、次は5月頃を目途にモンゴルに行こうと考えている。また本プログラムと並行して開催されているベトナム研修への本年度の参加も検討している。海外の方との会話や交流の回数も増やしたため、学校のプログラムやオンライン英会話等の使用を始める。

●プログラム参加を検討している学生さんへのメッセージ

10日間という短い期間の中で非常に多くの経験や学びを得ることができるプログラムです。漠然としたヨーロッパに対するイメージを明確なものにするために実際に現地に足を運び、自分の目で見てみるのが非常に大切だと本プログラムを通して実感することができたので、是非皆さんにも同じ体験をしていただきたいです。グローバルに活躍する「目と耳が開かれた人材」に近づくための大きな一歩となります!